

## 〈専制政治とキリスト教〉

3世紀後半…**ディオクレティアヌス帝**が軍人皇帝時代を終わらせる。(彼が最後の軍人皇帝)  
強い権力を持って改革を進めた。

ディオクレティアヌス帝 {

- ・皇帝が強い権力を持つ**専制君主制(ドミナートゥス)**
- ・帝国を4つに分けて統治：**四帝分治(テトラルキア)**
- ・キリスト教徒への大迫害。

→以後、ドミナートゥス(専制君主制)とテトラルキア(四帝分治)の時代が続く。

4世紀初めに、再び帝国全土を支配できる権力を持つ**コンスタンティヌス帝**が現れる。

コンスタンティヌス帝 {

- ・前313年…**ミラノ勅令**：キリスト教を公認
- ・前325年…**ニケーア公会議**
- ・**コンスタンティノーブル**へ遷都

→コンスタンティヌス帝以後、ローマ帝国はキリスト教中心の政治体制を目指す。

ローマ市の影響が強い帝国の西側と、キリスト教の影響が強い東側の分裂傾向が進む。